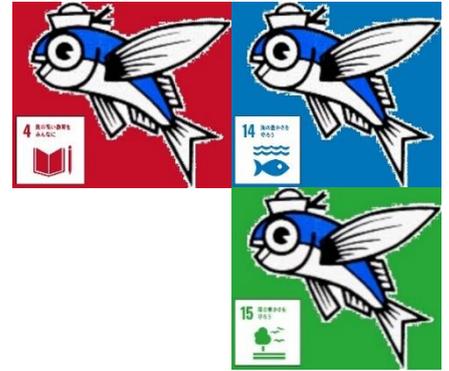


時期	5月～11月	時間	午前 9:20～11:30 午後 13:30～16:00
難易度	★★☆	対象	青少年教育団体 および社会教育団体の 小学4年生以上
費用	100円 / 人		



スノーケリング (SNK)

人数制限あり
最大：24名まで
(引率者3名を除く)



<活動の概要>

マスク、スノーケル、フィン（足ヒレ）を身につけ、海の世界を堪能します。ところどころで海中生物を観察しながら、海のすばらしさを直接、自分の体で体感します。海の環境と自分の距離がより近く感じられます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立若狭湾青少年自然の家

活動のねらい

- 若狭湾の海底、海中の様子を観察し、環境及び郷土への関心・理解を深める。
- さまざまな道具を用い、海中で自由に動き回ることによって「海で遊ぶことが楽しい」ことを発見する。
- バディシステムやさまざまな水中活動を通じて、安全に対する意識を高める。

準備物

自然の家で準備しているもの	サイズ	置場所	団体に準備するもの
スノーケルマスク	S・M・L	【海の学習棟】	ウェットスーツを着る場合
フィン	SS・S・M・L・XL	【海の学習棟】	⇒水着
水泳帽	S・M	【海の学習棟】	スノーケリングベストのみを
スノーケリングベスト	S・M・L	【海の学習棟】	着る場合
ウェットスーツ	各サイズ	【海の学習棟】	⇒水着・Tシャツ・短パン 水筒、軍手、靴下、 ぬれてもよい靴、サンダル 終了後の着替え・タオル

シーカヤックとスノーケリングの同時活動はできません。

活動内容(手順)

所要時間 (目安)	項目	内容	備考
活動前	準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「スノーケリング・プログラム活動計画書」、「参加者名簿」を最終打ち合わせにご持参ください。 午前 8:40 / 午後 12:50 ○ 水温が低い場合(原則18度未満)、突風・雷・暴風や波浪の警報、濃霧などにより、中止することもあります。 	
20~30分	活動方法の説明と安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海の学習棟に集合します。 午前:9:20 / 午後:13:30 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各物品の確認・着用をします。 ・ 安全に関する注意(バディシステム、スノーケルクリア、危険生物)をします。 ○ 大浜へ移動します。 	<ul style="list-style-type: none"> ※班編成などは団体で決めてください。 ※グループごとに水泳帽で色分けします。
40~60分	活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入水方法等の説明をし、活動を始めていきます。 ○ 活動エリアは海象状況や、参加者の様子・体調を見て指導者が決めます。 	
15~30分	上陸 片付け 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大浜に上陸し、人数確認、体調不良等の確認をします。 ○ 海の学習棟に移動し、簡単に振り返りを行います。 ○ 物品の片付け・破損の確認をします。 ○ シャワー・着替えをして終了です。 ※ 片付けと振り返りは、状況によって前後します。 	

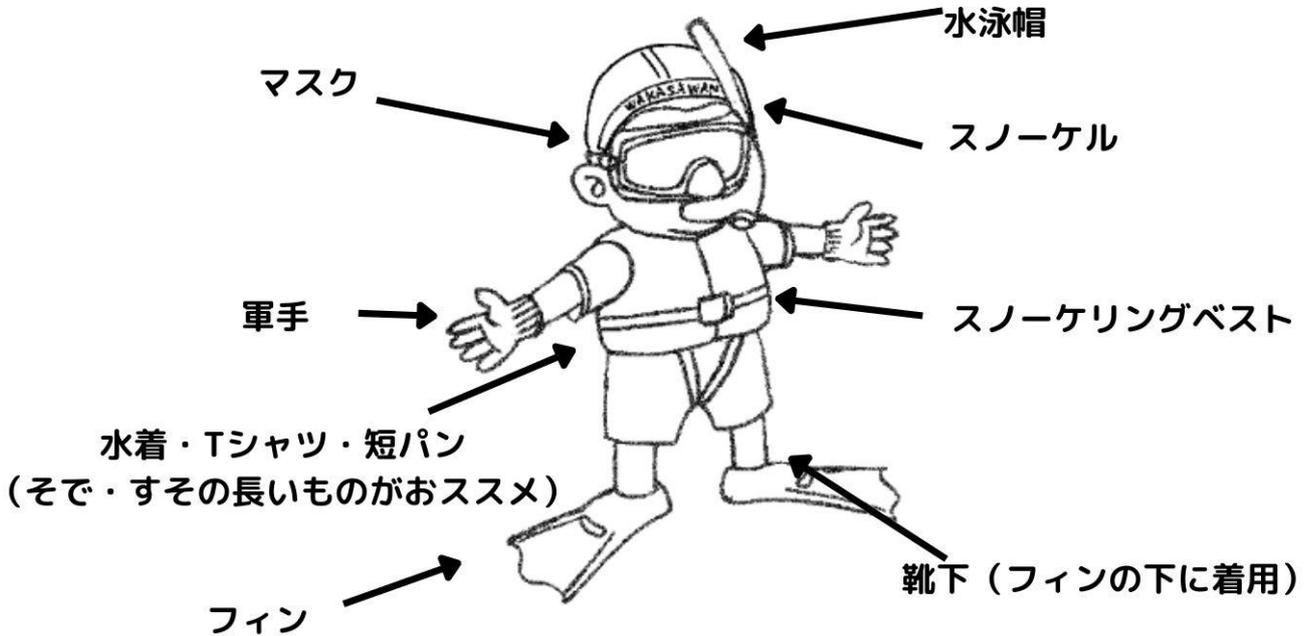
ふりかえりの視点

- 危険が予想される場合は、当施設職員の判断により活動を中止することがあります。
- 活動には、各班に1名水中監視者と全体で1名陸上監視者が必要です。
- 班付き以外に、水中監視者を置くことも可能です。

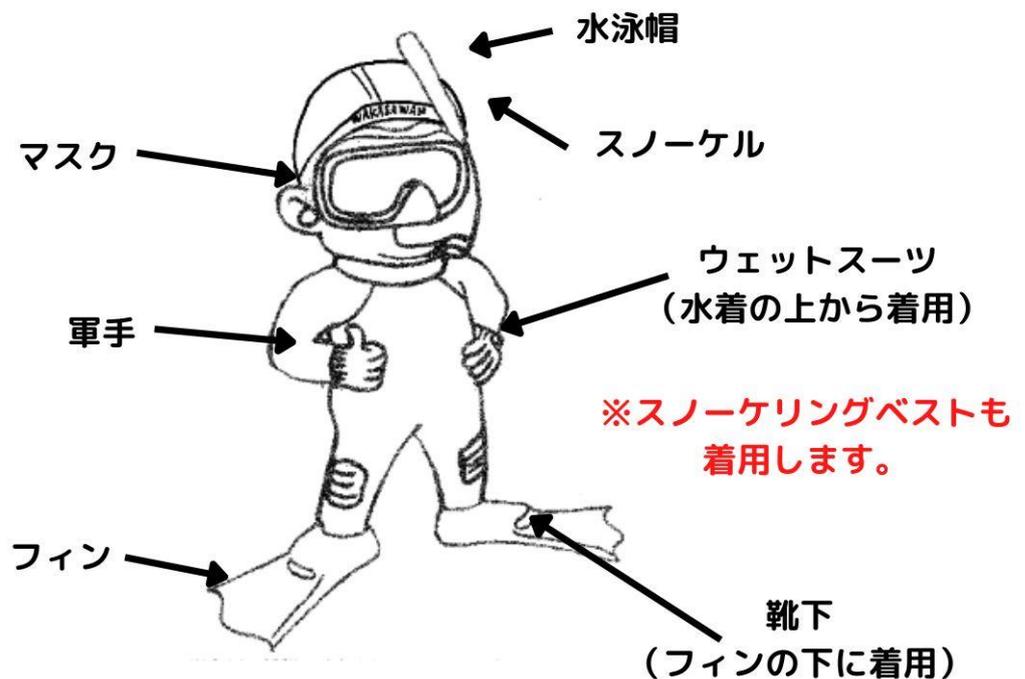
指導上の留意点

- 海に入りどんなことを感じたか
例) 海の外と中の違い、色、音
- どんな生き物を見つけたか
例) 場所によって見える生き物の違い、生き物の特徴、感触
- 活動を通して感じたことはなにか
例) バディがいたから深い所まで泳げた、綺麗な海を保っていくためにできること
SDGsの視点
- どんなことに気をつけながら活動を進めたか
例) 安全について(バディシステム)、スノーケルマスクの使い方

暖かいとき（目安：水温18℃以上のとき）



寒いとき（目安：水温16℃以下~17℃のとき）



活動エリア

至 烏帽子岩

赤石の浜
(磯釣り
ビーチコーミング)

潜堤

カッター艇庫

海の学習棟
・集合場所
・シャワー室
・荷物置き場

多目的栈橋
(磯釣り)

シーカヤック置き場

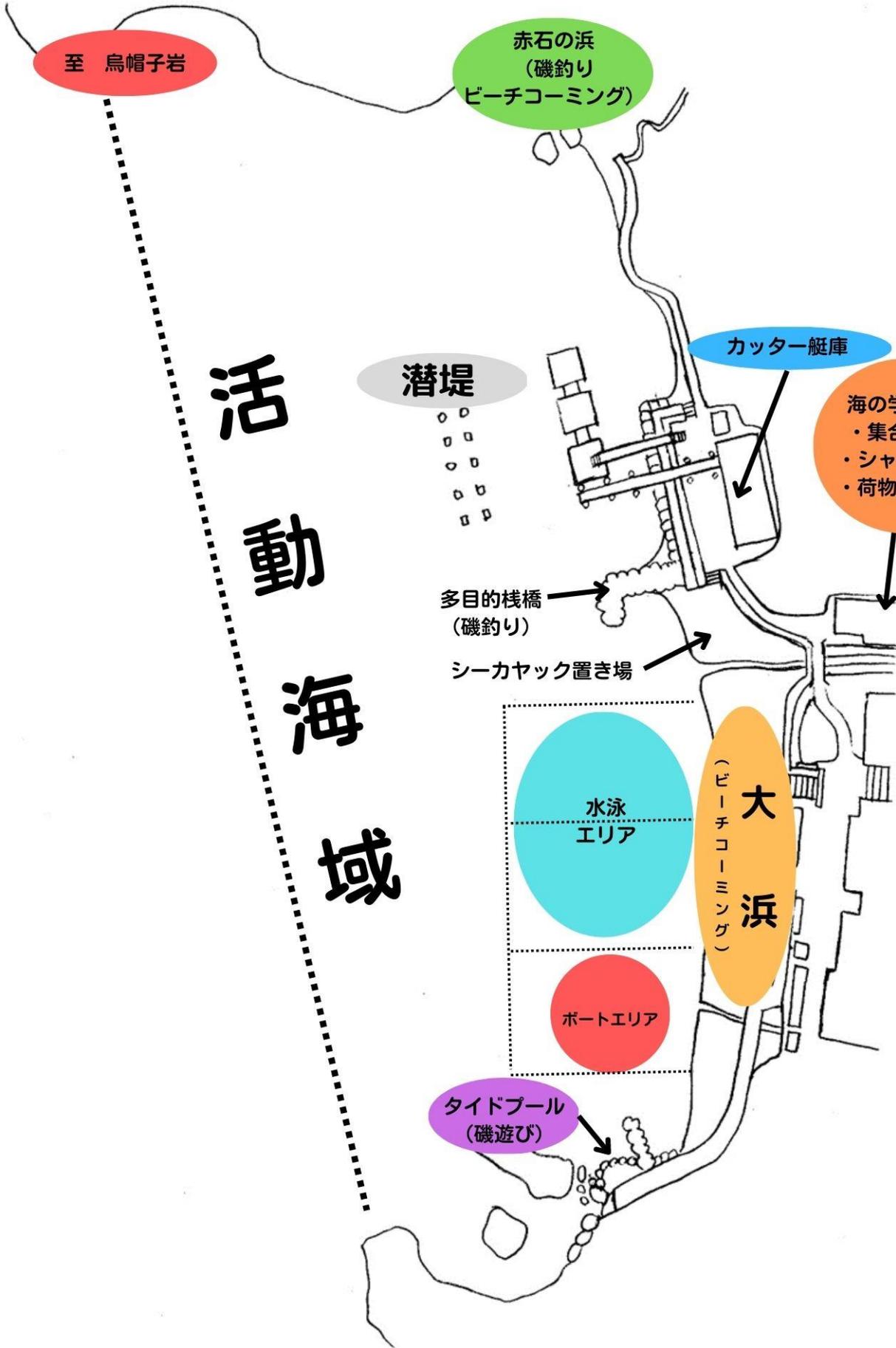
活動海域

水泳
エリア

大浜
(ビーチコーミング)

ポートエリア

タイドプール
(磯遊び)



H22.4.1改訂 H25.4.1改訂
H26.4.1改訂 H27.4.1改訂
H28.4.1改訂 R 3.3.1改訂
R 4.1.7改訂 R 5.4.1改訂

スノーケリング・プログラム実施要項

国立若狭湾青少年自然の家

当施設でのプログラムとして、スノーケリング・プログラムを実施する利用団体は、次の事柄を十分理解して、安全対策に万全を期するとともに、活動の目的達成に努めるものとする。

1 活動の目的

- ・ 若狭湾の海底・海中の様子を、スノーケリングを行いながら観察し、環境及び郷土への関心・理解を深める。
- ・ さまざまな道具を用い、海中で自由に動き回ることによって、“海で遊ぶことが楽しい”ということを発見する。
- ・ バディシステムやさまざまな水中活動を通じて、安全に対する認識を高める。

2 基本事項

<実施期間>

5月～11月

<活動場所>

北より①「赤石浜ポイント」、②「裏バースポイント」、③「潜堤ポイント」、④「多目的栈橋ポイント」、⑤「大浜ポイント」、⑥「島の越ポイント」の6カ所。

<参加人員>

同時に使用できるのは24人まで。(青少年教育団体および社会教育団体)

<参加対象>

小学校4年生以上とする。

<指導・監視人員>

当施設から……指導者1名→自然の家職員1名

利用団体から……陸上監視者1名、水中監視者 6～8人につき1名→1班につき1名

*水中監視者は、一つの班を担当し、誘導及び安全管理を行う。

<実施の可否>

次のいずれかに該当する場合は中止とする。

午前の活動は8:30、午後の活動は12:45に判断する。

- ① 平均風速が10m/s以上と判断されるとき
- ② 波高が1m以上と判断されるとき
- ③ 原則として水温が18℃未満の場合。(16℃以上18度未満の場合は団体と相談の上、ウェットスーツを着用しての実施可)
- ④ 局地的な突風がある場合。(特に寒冷前線が通過する場合。)
- ⑤ 台風の接近や暴風警報の発令が予想される場合。
- ⑥ 暴風や波浪の警報が発令されている場合。
- ⑦ 雷の発生するおそれがある場合。(目視や音での確認)
- ⑧ 活動に影響する注意報が発令されており団体より中止の申し入れがあった場合。
- ⑨ 濃霧で見通しの悪い場合。
- ⑩ 動力監視艇が、安全に栈橋や沖合に待機できない場合。

⑪ その他、活動不可能と特に施設が判断した場合。

<その他>

原則として道具だけの貸し出しは行わない。

3 実施の概要

<実施前>

- ・スノーケリング・プログラムの指導と安全管理は、指導担当者と利用団体指導者で行うため、事前打ち合わせにおいて十分に共通理解を図る。
- ・利用団体の陸上監視者もしくは水中監視者は、実施にあたって午前の活動8:40、午後の活動12:50にスノーケリング・プログラム計画書<様式1>ならびに参加者名簿<様式2>を事務室へ提出し、指導担当者と最終打ち合わせを行う。

<実施中>

- ・指導及び緊急時の対応・指示は当施設職員が行う。
- ・道具の準備および片づけは、利用団体が職員と協力して行う。
- ・参加者は2~3人でバディを組み、スノーケリング中はもとより陸上でも常に相手を確認しながら行動する。(バディシステムの確立)

4 安全管理

<健康観察>

- ・利用団体の引率責任者及び当施設職員による健康観察によって、参加の可否を決める。また最終打合せ時、参加者の健康状態ならびに既往疾病による支援事項を施設職員と共有できるようにする。

<安全対策>

- ・危険が予想される場合は当施設職員により中止する。
- ・設備用具の使用にあたっては、当施設職員の指示に従う。
- ・万一用具の破損等が発生した場合には、すみやかに当施設職員に申し出る。
- ・利用団体側から陸上監視者を、また海上監視者も配置する。
- ・岩や生物には指導者の指示がない限り触れないようにする。
- ・原則として潜水(スキンドイビング)はしない。
- ・WBGT28以上の値が予想される場合は、団体との協議の上、活動時間の短縮等の対策を行う場合がある。

<様式1>

スノーケリング・プログラム計画書

※この書類は、活動日当日 午前の部 8時40分 午後の部 12時50分に事務室へ提出してください。

国立若狭湾青少年自然の家所長 殿

利用団体名

スノーケリング・プログラム実施について(届)

下記の要領により、スノーケリング・プログラムを行いますので届けます。また、活動にあたっては、別紙「スノーケリング・プログラム実施要項」に基づき、細心の注意をはかるとともに、指導担当者の指導に従い活動します。

記

活動実施日	年 月 日 ()	午前 or 午後
-------	-----------	----------

スノーケリング参加数	男性	女性	小 計	総計
児童・生徒				
水中監視				
陸上監視				

※太枠内の人数に活動費が必要になります (1名につき100円)

安全体制名簿

担 当	氏 名
団体責任者 (陸上待機管理者)	
活動責任者 (打合せ担当者)	

参加者名簿

利用団体名

1 班	学年	氏名	性別	
	水中監視者			
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
班の人数		人		

2 班	学年	氏名	性別	
	水中監視者			
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
班の人数		人		

3 班	学年	氏名	性別	
	水中監視者			
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
班の人数		人		

監視体制	役割	氏名	性別
	陸上監視		
	班担当外 水中監視		
	班担当外 水中監視		
	班担当外人数	人	

配慮を必要とする 児童・生徒	いない	いる・・・下欄に具体的に記入